

東邦大学学術リポジトリ

Toho University Academic Repository

タイトル	教室紹介(内科学講座膠原病学分野(大森))
別タイトル	Introduction of Division of Rheumatology, Department of Internal Medicine, Toho University School of Medicine
作成者(著者)	南木, 敏宏
公開者	東邦大学医学会
発行日	2021.03.01
ISSN	00408670
掲載情報	東邦医学会雑誌. 68(1). p.15 16.
資料種別	学術雑誌論文
内容記述	教室(診療科)紹介
著者版フラグ	publisher
JaLCDOI	info:doi/10.14994/tohoigaku.2020 025
メタデータのURL	https://mylibrary.toho-u.ac.jp/webopac/TD35935576

教室(診療科)紹介(120)

教室紹介

(内科学講座膠原病学分野 (大森))

東邦大学医学部内科学講座膠原病学分野

教授：南木敏宏

医局長：佐藤洋志

講座の概要

当科は2004年4月に東邦大学大森病院内科臓器別再編成計画により新設され、川合眞一先生が初代教授として着任されました。また整形外科の先生方とともに2005年7月にリウマチ膠原病センターが発足しました。2017年3月に川合教授が退任し、4月に南木敏宏が教授に就任しました。

診療

関節リウマチ含めた膠原病患者を中心に診療を担当していますが、リウマチ専門医は全身を診ることを期待されていると考えて、そのように努めています。また、リウマチ膠原病センターとして、手術などの整形外科治療が必要な際にも円滑な診療を行っています。現在、リウマチ専門医8名、総合内科専門医4名を中心としたスタッフが日々の診療を行っています。外来患者数は毎年順調に増加してきており、1日平均患者数は2004年度の10.9人から2019年度には73.8人になりました。入院診療では、年間退院患者数も同様に2004年度の50人から毎年増加し、2011年度以降は概ね260~300人となっています。2019年度の初診患者数は380人、平均1日入院患者(在院者)数は19.1人、平均在院日数は25.3日でした。現在当科で診療している患者は約2500人に上ります。近年、生物学的製剤を中心とする分子標的治療薬が広く膠原病治療に用いられるようになり、リウマチ性疾患の治療は大きく進歩し、疾患の予後も改善しています。当科ではこれらの新規薬剤も積極的に導入し、また今後期待される薬剤の治験にも参加しています。

教育

東邦大学の医学部学生、東邦大学医療センター大森病院の研修医に対して膠原病学の教育も行っています。医学部学生にはM3での膠原病学の講義、またM4-6の学生実習



教室員

も担当します。卒後教育としては、初期研修医、後期研修医に対する膠原病診療の指導も行います。リウマチ膠原病学への理解と興味を持ってもらい、優秀な医師の育成を目指します。

研 究

当科では、診療、教育と共に、膠原病の病態の解明、治療法の向上、新規治療薬開発を目的とした、基礎的研究や臨床研究も積極的に行っています。臨床研究では、関節リウマチの治療効果予測の解析、動脈硬化にアバタセプトが及ぼす影響の解析、メタボローム解析による病態解明、またステロイド性骨粗鬆症におけるテリパラチドの治療効果の解析、ロモソズマブの治療効果の解析などを行っています。基礎研究では、関節リウマチにおける口腔内細菌叢の解析、間質性肺炎モデルマウスの肺内細菌叢の解析やフラクタルカインの関与の解明、全身性エリテマトーデス患者

の病態形成における腸内細菌叢の関与、シェーグレン症候群モデルマウスにおけるフラクタルカインの関与、単球の破骨細胞分化に対するフラクタルカインの影響の解析などを行っています。将来の膠原病治療に役立つことを期待しています。

最後に

膠原病学は治療の進歩と共にその関心は高まっていると思います。是非、膠原病に興味ある先生と一緒に仕事が出来ることを楽しみにしています。東邦大学医療センター大森病院 膠原病科の後期研修・入局向けのWEBサイトを公開しました (<https://www.lab.toho-u.ac.jp/med/omori/pv/kogen/>)。是非ご覧下さい。

(南木敏宏)

DOI : 10.14994/tohoigaku.2020-025